平成 23 年 10 月 20 日

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

シルクロード文化遺産の体験型アーカイブ「遷画～シルクロード」
- 東洋文庫ミュージアムにて本日から一般公開 -

国立情報学研究所（所長：坂内 正夫、以下 NII）の北本 朝展准教授は、10 月 20 日、シルクロードの文化遺産を自由に組み合わせて仮想的な展示を作成・公開できる体験型デジタルアーカイブ「遷画（せんが）～シルクロード」を、本日オープンする東洋文庫ミュージアム（東京都文京区、文庫長：斯波 義信）の館内にて公開します。

「遷画～シルクロード」で作成した仮想展示はオリジナル絵はがきとしても印刷できることから、これまでもワークショップなどで多くの人々が制作を楽しんできました。同館ではこれを、来館者が参加できる体験型アーカイブとして多面的に活用します。ミュージアムと来館者とをつなぐメディアとして、ミュージアムを身近に感じるきっかけを生み出せればと考えています。

概要

NII は財団法人東洋文庫と協力し、ウェブサービス「遷画～シルクロード」を活用して、ミュージアム来館者が所蔵品を自由に組み合わせた絵はがきを制作できる体験型アーカイブを公開します。ミュージアムはこれまで作品鑑賞の場として発展してきましたが、近年はワークショップのように、人々が能動的に参加する双方向的な体験の場としての価値が高まりつつあります。そこで NII では北本朝展准教授[1]を中心に東洋文庫ミュージアム[2]と協働し、ミュージアム所蔵品を組み合わせて制作した仮想的な展示を、オリジナル絵はがきとして印刷できるシステムを構築しました。来館者がミュージアム所蔵品と能動的に関わることのできる場を提供することで、ミュージアムを身近に感じるきっかけを生み出せればと考えています。

図：遷画～シルクロード

「遷画～シルクロード」について

「遷画～シルクロード」[3]は、ディジタル・シルクロード・プロジェクトの研究成果の一つとして、2007 年に公開したウェブサービスです。ディジタル・シルクロードは、シルクロード文化遺産のデジタルアーカイブを先端的な情報学的手法を用いて構築し、それを新しい

人文学（デジタルヒューマニティーズ）の創生につなげていくことを目標とするプロジェクトです。その中核となる「国立情報学研究所『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブ」[(4)]の構築では、NII は財団法人東洋文庫と長年の共同研究を続けてきました。その中で「遷画～シルクロード」は、デジタル化したシルクロード専門書を一般の方々でも気軽に活用できるよう、シルクロード各地の文化遺産 - 遺跡や寺院の仏像・壁画 - を記録した数千枚の画像からお気に入りの画像を選んで並べ替え、個人の自由な発想のもとに仮想的な展示を制作（キュレーション）するシステムとしてデザインしたものです。

「遷画～シルクロード」はウェブサービスとして運用するだけではなく、ディジタル・シルクロードのアウトリーチ活動[(5)]の一環として、主に子どもたちを対象としたワークショップにおいても活用してきました。そして多くの子どもたちが、初めて見るシルクロードの文化遺産に親しみながら、仮想展示の制作にチャレンジしてきました。展示の制作にあたっては、他者が過去に制作した展示から学びつつ、そこに自分の創造性を加えていくことが重要になります。文化遺産を自分なりに解釈するという体験を通して、個人ごとに視点や解釈が異なることや、ストーリーを考えると展示が面白くなることなどへの気づきが得られました。

このたび「遷画～シルクロード」を東洋文庫ミュージアムに常設することで、今後はイベントに限定されない持続的な取り組みも可能となります。

写真：子どもたちを対象にしたワークショップの様子

図：来館者が制作できるオリジナル絵はがき

東洋文庫ミュージアムへの設置

同館に「遷画～シルクロード」を常設するにあたっては、以下の 2 点にも配慮しました。

第一に、ミュージアムと来館者とをつなぐメディアとしての役割です。まず、館内で制作した絵はがきを、来館記念品としてミュージアムショップから持ち帰れるようにすることで、ミュージアムでの記憶を残していくという役割を果たします。また、館内で制作した仮想展示をウェブサイト上で友人と共有できる「開かれたミュージアム」として、ミュージアムでの体験を広げていくという役割を果たします。このようにミュージアムと来館者とを多面的につなぐことで、ミュージアムへの関心を高めることができればと考えています。

第二に、システム管理コストの低減という課題への解決策です。本システムは、データセ

ンターであるNIIにすべてのデータを集約するクラウド型のシステム構成としたため、館内でのデータ管理が不要となり、インターネット接続されたコンピュータを用意するだけでシステムの運用ができるようにしました。

「遷画」とは

「遷画」とは、デジタルアーカイブの一つの表現方法として、ディジタル・シルクロードが提案している造語です。「遷画」は、複数の画像を自動的に次々に切り替えていくことで変遷や多様性を見せることができる、つまり「遷(うつ)」りゆく「画」という、インタフェースの動的な側面を表しています。同時に「遷画」は、「千画」という音を重ねることで、多数の画像（千画）を一覧し、整理して、公開することができるという、インタフェースの対話的な側面も表しています。

関連WEBサイト

1. 北本 朝展 - Researchmap
   http://researchmap.jp/kitamoto/
2. 東洋文庫ミュージアム
   http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/
3. 遷画～シルクロード - ディジタル・シルクロード・プロジェクト
   http://dsr. nii.ac.jp/senga/
4. 国立情報学研究所『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブ
   http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/
5. ディジタル・シルクロード アウトリーチ
   http://dsr.nii.ac.jp/outreach/

<<本件に関する問い合わせ先>>
国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授
北本 朝展 / KITAMOTO, Asanobu E-mail：kitamoto@nii.ac.jp

<<報道に関する問い合わせ先>>
国立情報学研究所 広報普及チーム（担当：岡本）
〒101-8430 千代田区一ツ橋2-1-2 TEL：03-4212-2131 E-mail：kouhou@nii.ac.jp

遷画
シルクロード

自由に画像を並べ替え、文化の変遷を見つけよう。

2011年10月20日、東洋文庫ミュージアムに登場。

国立情報学研究所
ディジタル・シルクロード・プロジェクト

NATIONAL INSTITUTE OF INFORMATICS

Digital Silk Road Project

http://dsr.nii.ac.jp/

◉「遷画（せんが）～シルクロード」とは

国立情報学研究所「ディジタル・シルクロード」プロジェクトは、シルクロードの文化遺産に関する資料などのデジタル化、デジタルアーカイブの構築とウェブサイト上での公開などに関する研究を、情報学と人文学の研究者が協力しながら進めています。

「遷画～シルクロード」は、デジタル化したシルクロードの専門書を一般の方々にも気軽に活用してほしい、という考えのもとにデザインしたシステムです。シルクロード各地の文化遺産―遺跡や寺院の仏像・壁画など―を記録した数千枚の画像からお気に入りの画像を選んで並べ替え、個人の自由な発想のもとに仮想的な展示を制作することができます。

東西交易路としてのシルクロードを、文化が変遷や融合を重ねつつ伝播していく様子を楽しみながら、あなた独自のシルクロードを見つけてみてください。

◉「遷画～シルクロード」とワークショップ

「遷画～シルクロード」は、ディジタル・シルクロードのアウトリーチ活動の一環として、主に子どもたちを対象としたワークショップにて活用してきました。そして多くの子どもたちが、初めて見るシルクロードの文化遺産に親しみながら、仮想的な展示の制作（キュレーション）にチャレンジしてきました。

展示の制作にあたっては、他者が過去に制作した展示から学びつつ、そこに自分の創造性を加えていくことが重要になります。文化遺産を自分なりに解釈するという体験を通して、個人ごとに視点や解釈が異なることや、ストーリーを考えると展示が面白くなることなどへの気づきが得られました。

◉「遷画～シルクロード」と東洋文庫ミュージアム

ミュージアムはこれまで作品鑑賞の場として発展してきましたが、近年はワークショップのように、人々が能動的に参加する双方向的な体験の場としての価値が高まりつつあります。そこで国立情報学研究所は東洋文庫ミュージアムと協働して、ミュージアム所蔵品を組み合わせて制作した仮想的な展示を、オリジナル絵はがきとして印刷できるシステムを構築しました。

ミュージアムと人々との関係は、館内で制作した絵はがきをミュージアムショップから持ち帰るという一過性の関係にとどまらず、ウェブ上に展示して友人たちと共有するという「開かれたミュージアム」へと広がっていきます。所蔵品と能動的に関わることのできる場を築くことで、人々がミュージアムを身近に感じるきっかけを生み出せればと考えています。

「遷画」とは、デジタルアーカイブの一つの表現方法として、ディジタル・シルクロードが提案している造語です。「遷画」は、複数の画像を自動的に次々に切り替えていくことで変遷や多様性を見せることができる、つまり「遷」りゆく「画」という、インタフェースの動的な側面を表しています。同時に「遷画」は、「千画」という音を重ねることで、多数の画像（千画）を一覧し、整理して、公開することができるという、インタフェースの対話的な側面も表しています。

「遷画～シルクロード」ウェブサイト

http://dsr.nii.ac.jp/senga/